

◆ 授業づくり編6年A ワークシート 氏名:

「より妥当な考えをつくりだす力」を育成する授業づくりについて考えましょう。

問題 物が燃える前と物が燃えた後とで、空気はどのように変わるのだろうか。

酸素がなくなる

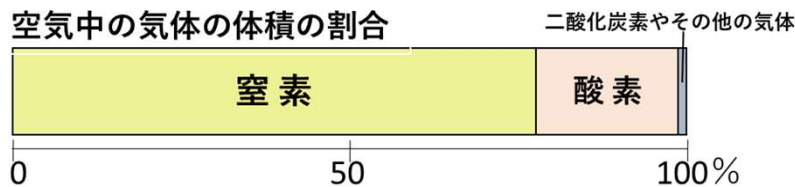


ある児童

結論 物が燃えると、酸素の一部が使われて、二酸化炭素ができる。

○ 既習事項

- ・ 物が燃え続けるには、常に空気が入れ替わる必要がある。
- ・ 空気全体の体積の割合は、窒素が約78%、酸素は約21%、二酸化炭素は約0.04%である。



- ・ 酸素には、物を燃やすはたらきがある。
- ・ 窒素や二酸化炭素には、物を燃やすはたらきはない。

○ ワークショップの流れ

個人の考えをまとめる

- ・ 動画の続きのセリフを考え、その後の授業展開を付箋に書く。

グループで考えを共有し、授業を構想する

- ・ 付箋に書いた内容を説明しながら、模造紙に貼る。同じような内容をまとめる。
- ・ 協働で授業づくりをする。

全体で共有する

- ・ グループ内で考えた内容を発表し、全体で共有する。

黄色の付箋：教師の働き掛け（発問、指示、図表の提示等）

緑色の付箋：児童の発言・思考

「より妥当な考えをつくりだす」とは

より妥当な考えをつくりだすとは、自分が既にもっている考えを検討し、より科学的なものに変容させることである。この力を育成するためには、自然の事物・現象を多面的に考えることが大切である。

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編 より

「多面的に考える」とは

「多面的に考える」とは、自然の事物・現象を複数の側面から考えることである。具体的には、問題解決を行う際に、解決したい問題について互いの予想や仮説を尊重しながら追究したり、観察、実験などの結果を基に、予想や仮説、観察、実験などの方法を振り返り、再検討したり、複数の観察、実験などから得た結果を基に考察したりすることなどが考えられる。

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編 より

○ 振り返り

・より妥当な考えをつくりだすための授業づくりを行って、感じたことや考えたことを書きましょう

・明日の授業から実践してみたいと思ったことを書きましょう

◆ 授業づくり編6年A 振り返りアンケート

研修実施日	年	月	日	氏名	
-------	---	---	---	----	--

I 授業づくり編の研修全体について質問します。以下の項目について、該当する数字を○で囲んでください。

※ 4:よく当てはまる 3:だいたい当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

1 研修の内容は、満足できるものであった。	4	3	2	1
2 研修の資料は、分かりやすかった。	4	3	2	1
3 研修の時期は、ちょうどよかった。	4	3	2	1
4 研修の時間は、ちょうどよかった。	4	3	2	1
5 研修の進行役の指示や説明は、分かりやすかった。	4	3	2	1
6 研修の内容を今後生かしていくことができそうだ。	4	3	2	1

II 授業づくり編の研修内容について質問します。以下の項目について、該当する数字を○で囲んでください。

※ 4:よく当てはまる 3:だいたい当てはまる 2:あまり当てはまらない 1:当てはまらない

1 授業の導入部分のモデル授業を視聴して、その後の授業展開を個人で考えることができた。	4	3	2	1
2 授業づくり体験を通して、教師がどのような働き掛けをすれば児童の問題解決の力を育成できるかをイメージすることができた。	4	3	2	1

III 本日の研修で学んだことを、今後どのような場面で活用していこうと思いますか。

ありがとうございました。